



©2025年日本国際博覧会協会

■シグネチャーパビリオン 「EARTH MART」

設計：隈研吾建築都市設計事務所

小山薫堂氏がプロデュースしたシグネチャーパビリオン「EARTH MART」は、建築家・隈研吾氏が設計を担当し、茅ぶき屋根が最大の特徴です。テーマは「いのちをつむぐ」で、食の世界に精通する小山氏が「食を通じて、いのちを考える」ことを提案しています。館内は、「いのちの売り場」と「みらいの売

場」で構成され、来場者とともに食の未来を模索する場となっています。

建物は、食と命の循環を意識し、再利用可能な素材を使用した「循環型建築」となっています。日本の集落をイメージし、幾つも連なる屋根は、日本の農家などに見られる茅ぶきとしています。この茅は、万博終了後にアップサイクルされる計画もあり、持続可能性を大切にしています。茅ぶき屋根の下で、未来の市場の姿をみることができます。



©ZERI JAPAN

■民間パビリオン / NPOゼリ・ジャパン 「ブルーオーシャンドーム」

設計：坂茂建築設計

「BLUE OCEAN DOME」は、建築家・坂茂氏が設計を担当し、ZERI JAPANが推進するサステナビリティを理念とし、紙管、竹集積材、カーボン・プラスチックなどの建築素材を構造に使用しています。この新たな建築技術は、「強さと軽さ」を兼ね備え、現代のサーキュラー・

エコノミーやESG（環境・社会・ガバナンス）推進の重要性が増す中で、今後の建築の方向性を示すものとなっています。さらに、万博終了後の継続活用を考慮しており、資源を有効に活用し、サステナブルな万博運営を目指す大阪・関西万博の理念とも一致しています。

なお、モルディブ共和国で再活用される計画があり、その移設先については、坂茂氏が手掛けている海洋リゾート開発プロジェクト内での活用を検討しているようです。